

東京都立川市

CLOSE UP
人づくり③

立川市のプロフィール

立川市は、東京都のほぼ中央西よりに位置し、多摩川に沿った低地と広い武蔵野台地からなる、十八万人に迫る



街とアートが一体となった「ファーレ立川」アート素材は、街灯や車止め、建物の外壁や換気塔などで、109か所に世界各国の芸術家が作品をつくり、歩く楽しさを演出している

人口を抱えた多摩地区の中心都市である。JR立川駅周辺には商業や業務などの機能が集まり、立川基地跡地には国営昭和記念公園や広域防災基地などがあるほか、省庁移転による拠点整備も進められ、国や都の出先機関の多い官公庁のまちとしても知られている。

近年、この二地区を中心に新しいまちづくりが進められ、現在はこれら事業の総仕上げの段階にある。駅周辺では南北口の土地区画整理事業や再開発事業、歩行者専用デッキの整備が進み、賑わいのある新たな都市空間へと生まれ変わった。一方、基地跡地には女性総合センターや中央図書館などの公共施設や業務・商業施設が建ち並ぶ「ファーレ立川」がまちを開きしたほか、平成二二年の開庁に向けて新市庁舎の建設も進められている。

人材育成基本方針に加え、実施計画も策定

平成十八年九月、立川市は今後の人

材育成の目標や方向性を明らかにした「人材育成基本方針」を策定した。「市民の立場に立って、凛として行動する職員」を基本姿勢とし、協働の視点、都市経営の視点、将来的な視点を兼ね備えた職員を「目指すべき職員像」に掲げ、その実現に向けた具体策として人事管理制度や研修制度、職場環境の整備に関する諸施策を示している。

今日、地方分権が進み、自立した行政運営と多様な行政需要に対応できる人材の育成が急務となっている。そうした中、自治体の多くが「人材育成基本方針」を策定しているが、立川市で注目すべきは、基本方針に加えて、全国でも数少ないという「人材育成実施計画」（計画期間：平成十九年度～二三年度）を策定していることである。実施計画には、基本方針の中に位置つけた五九の取組事項について、その目的や実施内容、検討事項、実施スケジュールなどが具体的に示されている。研修制度に関しては、「自己啓発の支援」「職場研修の推進」「職場外研修の充実・強化」「派遣研修の充実」「研修推進体制の整備」の五項目に対して、二五もの取組事項がある。例えばその一つ、「研修専門機関への積極的な派遣」



立川市新庁舎の建設現場
低層（地上3階・地下1階）、大平面、吹き抜けと中庭の配置を建物の基本的な考え方として、屋上緑化や太陽光発電の活用など環境面にも配慮されている

には、全国建設研修センターなど全国規模の研修機関への派遣を積極的に行う内容が記され、派遣職員の選考基準や学習した専門能力の活用方法などが検討事項として挙げられている。

研修を通って二〇〇七年問題に対応

全国建設研修センターの研修参加状況を見ると、目を引くのは、平成十九年度の四名から二〇年度は十八名と大



お話を伺った立川市行政管理部の皆さん
(左から、横田和幸主査、栃木義弘主査、関谷純市主査、小宮山克仁主査)

幅に増加したことである(表)。そして、今年度も二〇名程度の参加が予定されている。この背景をお聞きすると、団塊世代の大量退職、いわゆる二〇〇七年問題への危機感があるのだという。「現在、土木・建築系の技術職員数は約一七〇名、その三割がここ五年間でいなくなり、早急な技術力の向上が使命となっています。本来は現場経験を積んで技術を継承していくのが一番いいのですが、現場の数が減っていることもあり、研修への期待が大きくなっています」と品質管理課の栃木義弘主査は話す。

さらに、人材育成推進担当の小宮山克仁主査は次のように指摘する。「これまで研修派遣は人事部門が一括して手

全国建設研修センターへの研修参加状況

【平成19年度】		4名
研修名	期間	
総合評価方式の活用		3
建築基準法(建築物の監視)		10
建設リサイクル		5
景観実務		10
【平成20年度】		18名
研修名	期間	
地方自治体における総合評価方式の仕組みづくり		3
下水道		4
建築基準法(建築物の監視)		10
土木工事監督者		5
交通安全事業(市町村道)		4
道路舗装		5
土木構造物耐震技術		4
土木施工管理		3
コンクリート構造物の維持管理・補修		3
区画整理		5
橋梁維持補修		5
建築保全		5
鋼橋設計・施工		3
景観実務		10
建築設備(電気)		10

(注)平成20年度の「交通安全事業(市町村道)」「土木施工管理」「建築保全」の3研修についてはそれぞれ2名が参加している。

がけていましたが、昨年度から技術職の研修については品質管理課で担当することになりました。人事部門には技術的知識がないものですから、各部署

でどのような研修が望まれ、また必要とされているのかを判断するのが難しい状況にあったのです。この点、品質管理課は技術職員の現状をきちんと把握していますので、効果的な研修が開けるようになりました」。

実務的課題を短期間で学ぶ研修も

最後に、センター研修に対する評価と要望をお聞きした。評価については、ちようど取材時に『ユニバーサルデザイン研修』を受講していた市職員がいらっしゃったので、文字どおり新鮮なコメントをいただくことができた。センタ

ー研修の魅力は別掲のとおり、講師陣の充実と合宿研修による受講者同士の交流にあるという。

一方、要望に関しては、前出の栃木主査から以下のご意見をいただいた。「研修コース、研修内容とも充実していますから、こういうテーマだったら参加したいという声は直接聞いていますが、面白いなど思ったのが、昨年度から始まった『土木技術のポイントA(計画・設計コース)・B(施工・監督・検査コース)』です。今年度、早速参加する者がいて、私もできればぜひ参加してみたいと思うぐらい非常にいい研修ですね。長期間じっくり学ぶ研修に加えて、こうした実務的な課題を短期間で学べる研修も増やしていたら、ありがたいです」。

研修の成果を生かしたい

立川市都市整備部道路課
瀧川 巖氏のコメント



昨日はつくばの建築研究所まで出て車椅子体験などを行い、今日はワークショップでユニバーサルデザインの視点からまちを観察したり、提案したりと、ハードですが充実した時間を過ごしています。この研修には上司から「これからはユニバーサルデザインの時代だね。ちょっと勉強してくれば」とお話をいただき、いろいろな視点から道路づくりをしたいと思い、手をあげました。センター研修は、その専門の優れた講師から具体的なお話を聞けるのが魅力です。そうした講師陣を揃えられるのは、研修センターの努力があつてこそではないでしょうか。それから、受講者には国土交通省、自治体、民間の方々もいらっちゃって、さまざまな情報交換ができるのも魅力です。今後、研修で学んだこと、知り合った方々とのつながりも大切にしながら仕事に生かしていきたいと思っています。